

第 1 学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 よりよい学校生活、集団生活の充実 C- (15)
- 2 内容項目 学校は、公的な集団生活である点で私的な集団生活の場である家庭とは大きく異なっている。教師と生徒一人一人が学級や学校で自分自身の役割と責任を果たすことや、教師や学校の人々に支えられたり指導を受けたりしながら、互いの人間関係を深め、協力して生活することを通して、尊敬や感謝の気持ちが育まれていく。また、生徒の生活の場である学校はそれぞれ一様ではなく独自の校風がある。これは一朝一夕に築かれたものではなく、これまでの先輩や保護者、地域の人々の長年にわたる努力によって培われたものである。これを後輩たちが協力し合って継承し、更に発展させよりよい校風作りをしていくことが大切であることを考えさせる。
- 3 教材名 「自作教材」 資料名『三十年の歩み』（北辰中学校 30 周年記念誌から抜粋）
- 4 ねらい
 - (1) 指導内容について
内容項目 C- (15)は「教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合っ
てよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活
の充実に努めること。」の態度を育成することを目指している。
では、中学 1 年生は自分が担う役割や愛すべき集団について、どのように考えているのであろうか。入学
後、毎日せわしなく過ぎていき、学校行事をただこなしていくだけで、ゆっくりと伝統について考える機会
があまりなかったように感じる。そこで、開校 70 周年という節目にあたり、本校の生い立ちから、現在ま
で残る行事や「北辰の精神」を立ち止まって考え、母校に対しての思いや、未来の後輩たちに自分たちは何
を伝えていきたいのかを考えさせたい。
 - (2) 生徒について
小学校 6 年時に当時の中学校 3 年生の「小学校訪問(3 月)」を通じて「北辰中学校の生徒」になる意識が
芽生えてくる。入学後すぐに行われる「造形の日」(昭和 47 年からの伝統行事)で仲間と協力し合う、意識
が強くなる。校外学習や様々な学校行事を通じて北辰中学校の一員としての帰属意識が育てられてきている。
 - (3) 資料について
この資料は、北辰中学校 30 周年記念誌の「星野正明先生」の文章から抜粋したものである。星野先生の
文章から、「開校当初の北辰中学校」の学校づくりに熱意をもって励んでいる教員の姿とそれに応えようと
する生徒たちの様子が伝わってくる。自分の母校について誇りをもち、「北辰らしさ」について考える態度
を育てるためには、生徒たちに共感することが多くある資料が良いと考え、この資料を使用することにし
た。

5. 本時の展開

学習活動	発問と予想される生徒の反応	留意点
<p>導入 5分</p> <p>北辰中の校名や校章について意識をもたせる。(5分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【発問】 北辰中の校名や校章にはどんな思いが込められているだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・高い理想をもってほしいという願い。 ・外枠の壺に学問とか教養とか入れてほしかったんだ。 ・校章のアカシアの枝は、札幌人としての誇りをもってほしいということだったのか。 	<p>自由に発想を膨らませる。</p>
<p>展開</p> <p>第7代校長の文章を読む。(10分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【発問】 星野校長は「北辰生」がどのような生徒に育ってほしいと思っていたのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいことにもチャレンジできる生徒になってほしい。 ・他の学校よりも先に何でもやってみようとする生徒たちになってほしい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【発問】 当時の先輩たちから学ぶ「北辰らしさ」とはどのようなことでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ精神かな・・・ ・粘り強いところ。 ・様々なことに興味をもつところ。 ・助け合いの心 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【中心発問】 「これからの北辰」に伝え残さなければならない「良き北辰の校風」とはどのようなもののでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・やる気のある精神を伝えたい。 ・学年の枠を越えて、お互いに助け合ったり協力したりできる人間関係を伝えたい。 	<p>ワークシートに記入させる。</p> <p>個人で自由に発言させる。</p>
<p>終末 10分</p> <p>自分の言葉で「北辰生」としての役割を書かせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問】 自分は「良き北辰の校風」を引き継ぐために、どのようなことを意識して学校生活を送っていけばよいのか書いてみよう。</p> </div>	<p>時間があれば、書いたものを発表させる。</p>

6. 本時の評価

自分の母校について誇りを持ち、北辰らしさについての自分の考えを表現することができたか。

「三十年の歩み」

校長 星野正明

昭和二十三年当時の北辰中学校の通学区は北四条通りから以北、東は豊平川、西は植物園以東、北は新琴似がまだ札幌に合併されていなかったのもので札幌市の境界までという広い通学区をもっておりました。つまり、札幌市の北部にある唯一の中学校であったわけです。

その当時の一学級の生徒数は多くの場合六十名を越え、時には教室がないために圧縮した学級編成をしました。学級数は三十学級前後で、昭和三十三年度は三十七学級、生徒数は二千百名を越えておりました。

また、本校はもともと男子校であったため、新制度の男女共学に対応しての設備等についての改善も一つの課題でありました。

通学区が広いために家庭訪問も容易でなくそのために自転車を購入し走り廻りました。また北二十四条以北は札幌飛行場の跡で、ようやく人家が建てられはじめられた頃で、冬のある日家庭訪問をしましたが帰りに猛烈な吹雪に合い、やっとの思いで戻ったこともありました。交通機関は西四丁目通りに市電が北十八条まで通っているだけでした。

新制中学校が誕生した頃は戦後の混乱した時代からようやく立ちなおりにかけてきた頃ですが、市民の衣・食・住すべてにわたって不自由な時代で、主食なども配給制で乏しい思いをしました。そのような物質的な面ばかりでなく、物の考えかたの面でも大きな転換があり大変な時代でした。

現在は物があり余っている時代のようにも受けとめられますが、当時は良質の紙もなく、インクも粉末のものを水で溶かして使ったりしていました。

「・・・中略・・・」

当時、北辰中学には立派な先生がたがおられて私はまだ若輩でしたのでいろいろご指導を受けたわけですが、昭和二十三年着任して間もなく、上司の澤田金次郎先生に呼ばれて三年生に(その年は三年生は女子のみ四学級)修学旅行をさせてやろうではないか。そのため計画一切を任すからやってもらいたいと仕事を与えられました。

当時は列車などは常に二倍以上の客が乗り、到底考えられぬことだと思いましたが、命令ですし、幸い田中札幌駅長さんが保護者でしたし、村井写真館の社長さんも保護者ということで、調査や計画をし職員会議に提案し承認を受け実施しました。夜札幌駅を出発、函館本線で長万部駅、乗り換えて虻田へ、次にトラックに生徒を乗せ洞爺湖へ。洞爺一泊、翌日、室蘭を見学登別へ、登別一泊札幌へ帰着というコースでしたが、米は配給米をもち、例えば倶知安駅でトイレという時でも窓から生徒を上げおろしというすさまじさで、しかも女子ばかりということで大変でした。しかし、他の学校に先がけて修学旅行をした、生徒たちは満足している。そのような結果は先生方と、ともども喜び合うことができ自分でもやり甲斐があったと思えました。

このように修学旅行に限らず、生徒たちに経験させたい、体験させなければならぬものはどんな困難があってもやってみせるという気持ちが全職員にあったし、生徒の協力も得てさまざまな試みが実施され、また北辰中の生徒はたくましく真面目で真剣であるということで、全市的な注目を受ける中で北辰の教育が進められてきました。



道徳「三十年の歩み」

第1学年
2017.11.6

今年、私たちの学校は開校70周年を迎えました。私たちの学校は他校にはない学校行事も数多くあります。5月に行われた「造形の日」もその1つです。「造形の日」は、昭和47年(1972年)に始まり、現在まで毎年行われる本校独自の特色ある行事です。平成8年までは縦85cm×横180cmの大きさの板に色紙を小さく切ったものをのりで貼り付けていく「モザイク絵」が作られていましたが、限られた時間での完成は難しくなり、この年を最後になりました。翌年からはエンブレムの制作と学級掲示物の2つの制作活動を行うことになりました。

みなさんは学級旗を制作するとき、どのような願いをこめてデザインを考えましたか。物を作るときには、その目的や作り手の思いが必ず作品に入っています。今日は、色々なものに込められている先人たちの思いを考えてみましょう。



Q1 私たちの校名や由来について考えてみましょう。



昭和22年(1947年)、札幌の北、国鉄函館本線より北「北辰斜めにさすところ」唯一の中学校、北辰中学校が、学制改革により誕生する。変わらぬ指標「北極星」を人の世にたとえ、「高い理想を持ち、変わらない人生の指標」をめざした教育をおしすすめようと、北極星の別名「北辰」を校名とする。

校章は昭和22年6月15日に決められた。美術の太田達雄先生が何回となく図案をかき、技術の鈴木利夫先生が石膏で実物そっくりにつくって、それをみんなで考える。大変な苦勞をしながらつくりあげた。全体の形は壺をかたどったユニークなものであって、それはア_____・イ_____をいっぱい入れる壺であり、北辰の辰という字の一部がウ_____の枝になっているのは、札幌の生徒であることの誇りと、香り高い豊かさと気高さを願い求めたものである。

(開校30周年記念誌 第三代校長 新谷恒蔵校長の文章から引用)

Q2 開校30周年記念誌の第七代校長「星野正明校長」の文章の一部を読み、北辰中学校の歴史や校風について考えてみましょう。

教材名『三十年の歩み』

- 1 星野校長は「北辰生」がどのような生徒に育ててほしいと思っていたのだろうか。

- 2 当時の先輩たちから学ぶ「北辰らしさ」とはどのようなことでしょうか。

- 3 「これからの北辰」に伝え残さなければならない「良き北辰らしさ(校風)」とはどのようなものでしょうか。

【自分の考え】
【友だちの考え】

- 4 自分たちは「良き北辰らしさ(校風)」を引き継ぐために、どのようなことを意識して学校生活を送っていけばよいのか書いてみよう。また、なぜそのように思ったのか理由を書きましょう。

◇今日の学習を振り返って、あてはまる数字に○をつけましょう。

		とても	←————→	まったく	
①	共感や感動がありましたか。	4	3	2	1
②	新たな発見がありましたか。	4	3	2	1
③	北辰らしさについて、考えることができましたか。	4	3	2	1
④	本時の教材について興味をもちましたか。	4	3	2	1